

（2）過去の地震活動

エクアドルの沿岸では、ナスカプレートが南米プレートの下に沈み込んでおり、M7.0 以上の地震が繰り返し発生している場所である。過去には、エクアドル沿岸付近で発生した地震により、日本でも津波を観測している。

1900 年 1 月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域 c）では、M8 を超える地震が 2 回発生していて、1906 年 2 月 1 日に発生した M8.4 の地震では、死者 1,000 人の被害が生じた。また、この地震によりコロンビアのトゥマコでは、5 m の津波を観測した。日本沿岸の太平洋側でも津波を観測しており、和歌山県串本で、48cm の津波を観測している（津波の高さは全振幅）。

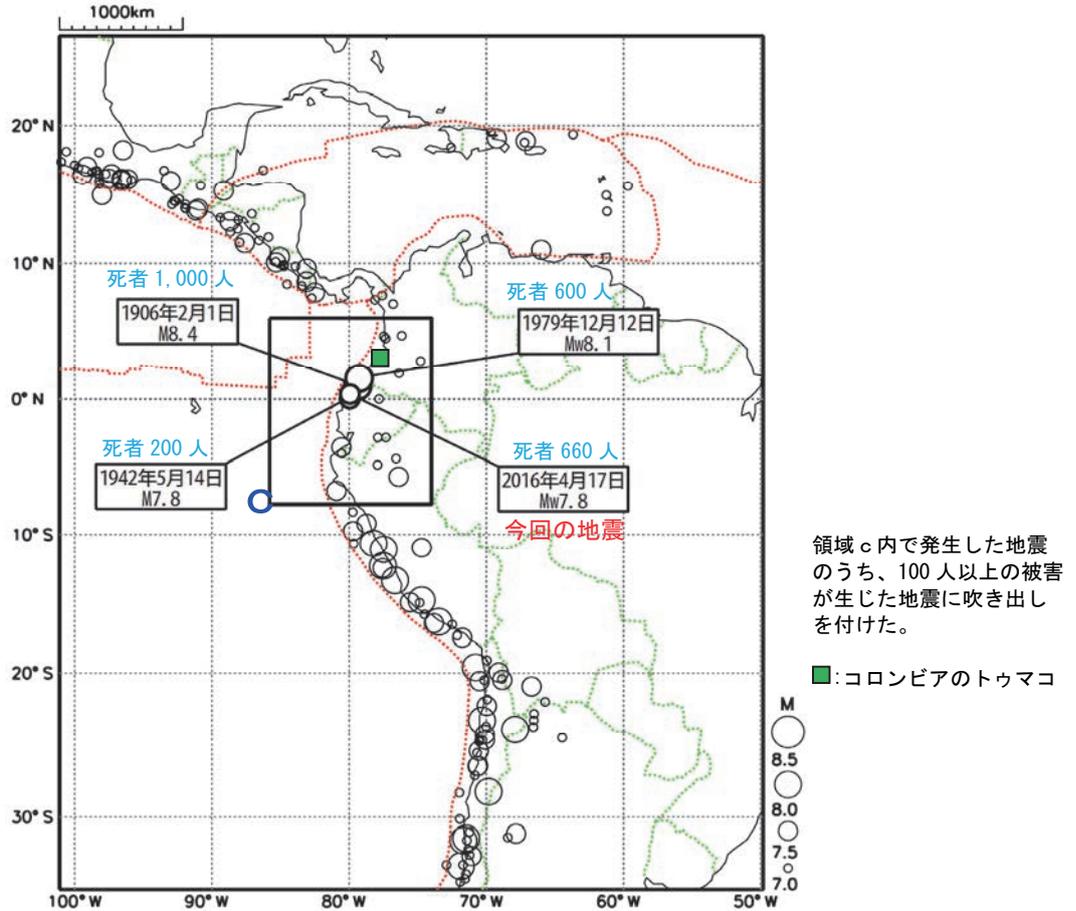


図 2-1 震央分布図
(1900 年 1 月 1 日～2016 年 4 月 30 日、深さ 0～300km、M≥7.0)

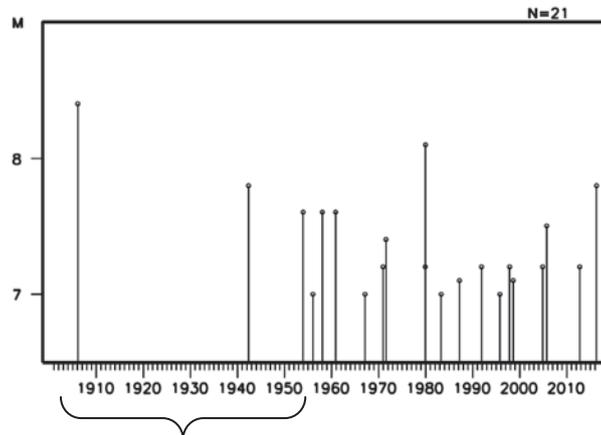


図 2-2 領域 c 内の M-T 図

※本資料中、1900 年～2012 年の震源要素は国際地震センター (ISC) による。2012 年以降の震源要素は USGS による。1976 年～2009 年の Mw は Global CMT、2009 年以降の地震の Mw は気象庁による。プレート境界の位置は Bird (2003) より引用。今回の地震の被害は OCHA (2016 年 5 月 2 日現在) による。その他の地震の被害は、宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。1906 年 2 月 1 日の地震による津波の高さは、米国海洋大気庁 (NOAA) 及び日本被害津波総覧による。